

海津市まちづくり委員会「第8回安全・安心まちづくり検討分科会」会議録

開催年月日	平成23年11月11日(金)	
開催場所	海津市役所 海津庁舎 3階 委員会室	
分科会委員定数	17名	
開 会	午後1時30分	
閉 会	午後3時40分	
出席者	○分科会委員	
	公募市民	白 井 春 幸
	NPO 法人 セーフティサポートコミュニティ平田	丹 羽 公 成
	南濃北部地区防犯パトロール隊顧問	藤 田 良 博
	海津地区交通安全協会長	堀 田 行 雄
	海津地区防犯協会副会長	牧 野 光 子
	海津市更生保護女性会代表	中 島 雅 子
	海津市自治連合会代表	宮 脇 信 幸
	海津市社会福祉協議会	水 谷 英 基
	総務課	神 田 勝 広
	福祉総務課	浅 野 貴 康
	消防課	戸 島 正
	海津警察署 生活安全課長	有 井 隆
	岐阜経済大学教授	菊 本 舞
	○事務局 企画政策課 課長	中 島 哲 之
	〃 係長	徳 永 宗 哲
	〃 主任	毛 利 卓 司
	〃 主任	二 俣 真 琴
欠 席 者	NPO 法人 海津おやじの会	樋 口 幸 二
	高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子
	公募市民	大 倉 金 次
	学校教育課	宇 佐 美 伸 幸
会 議 次 第	1. あいさつ	
	2. 検討内容	
	①連携組織の構成と役割	
	②住民参加を促すための取組について	
	3. 講評	
	4. 閉会	

会議録（要約）

事務局	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>これより、海津市まちづくり委員会「第8回安全・安心まちづくり検討分科会」を開催させていただきます。</p> <p>会に先立ちまして、分科会長より一言ご挨拶をお願いします。</p>
会長	<p>（会長あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>本日は、連携組織の構成と役割、住民参加を促すための取組について菊本委員からお話を頂き、そのあとグループ討議を予定しております。</p> <p>菊本委員よろしくをお願いします。</p>
菊本委員	<p>（資料に基づき説明）</p>
菊本委員	<p>今日は、まず最初に、小学校区をキーワードに連携組織の構成と役割についてグループディスカッションをしていただきます。</p> <p>それでははじめてください。</p> <p>（グループディスカッション）</p>
事務局	<p>お時間となりましたので、グループディスカッションはここまでとします。</p> <p>それでは発表をA班から始めてください。</p>
A班 A委員	<p><b>【A班】</b></p> <p>こちらのグループで話し合った結果を報告させていただきます。まず基盤となる小学校区というのを題しまして、見ていただければ分かると思いますが、色ごとに分けて、紫色の線が地域に密着する団体、ピンク色の枠が子ども・イベント型等を行う関係機関、青色の枠で囲ってあるのが防犯活動に関わっている組織・団体ということで、話し合っていくつかの団体を記入させていただきました。それです、もちろん重複する組織はいくつかあるんですけど、このように枠を囲って、うまく校区と関わった方がいいんじゃないかということで線を引っ張った結果なんですけど、基本的にすべての組織、ボランティア団体も含めまして、すべてが校区に関わって共に活動を進めて行く団体がまちづくりのために、校区が中心となって、それぞれの関係機関と関わって取り組んだ方がいいんじゃないかという話し合いができました。またですね、抜けている関係機関があるかとは思いますが、今日の話し合いの中では、こういった組織が出て、すべてが協働して行った方がいいんじゃないかという話し合いが出来ました。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p>
B班 B委員	<p><b>【B班】</b></p> <p>こちらの班は先程の班と比べると、ちょっと地味だったんですけど、書き始めるま</p>

でいろいろ討論させていただきました。その中で、ちょっと話が若干ずれた点もあったんですけど、組織という点では、その前に話が出たのはやっぱり人を参加させるには、まず「隣の人を誘って行こう。」とか考えると、隣人がいて各班があって各自治会があって、そういう細かいところから色々発生していて、自治会の役割というもの色々あると思うんですけど、そういったものを全部、組織として参加して行くという、このあたりは先程の話とほとんど変わりが無いと言えないです。銀行・農協・郵便局など地域に密着しているいろんな方と接する職業の方、こういった方々もおおいに参加していただいて協力を得たいと、そういった方々も当然、消防・警察・市役所、ちょっと線で繋がってないんですけど当然ながら自治会との繋がりもありますし、市役所で更生保護女性会ですとか団体すべてに関わりが出て来る、そして商工会にも関わりがあると、すべてが丸で繋がるわけなんですけど、参加組織としては結局一番組織の末端としては、個々の隣人に声かけして頑張るって行こうと、そこが一番大事なのかなという話でした。ちょっと組織と話はずれましたけどそういうことで、こちらの班は終わらせていただきます。

菊本委員

ありがとうございました。もしお互いの班で意見交換とかしたいということであれば10分くらいで、ちょっと短いんですけどディスカッションしていただいて構わないんですけど、特にAグループの方は組織というところからそれぞれの団体が繋がっていくというイメージと、それからどんな形で関わっていくのかというのを追及してこの分野をイベントと思って防犯の活動というのを考えていく上でこういう所が関連があるのではないかと、それからすでに防犯等というような色分けもしていただいていますし、左のBグループの方は自治会をベースとして小学校区ごとにどうしていくかということと、ちょっとおもしろいのが、Aグループの方で商工会（観光協会）という言葉が出てきたり、Bグループで銀行・農協・郵便局といったのが前回までは無かった団体名があがって来てます。例えば、活動資金だとか実際にイベントで楽しみを加えた防犯のまちづくりということを考えていくと、こういった今まで防犯や安全・安心ということで必ずしも積極的でない、あるいは必ずしも繋がっていない団体というのは、実は関わっていくということが必要なのではないかと両方のグループから挙がってきたのが今日の形になっているのではないかと思います。どうでしょうか。ご意見があれば。特にございませんか。特になければこのまま二つ目のディスカッションに入りたいと思います。

住民参加を促すための取組ということで、なぜ参加しないのか、参加者を増やすためにはどうしたらいいのか、参加する方が得すると思わせるためには、あるいは楽しいと思わせるためには何をしたらいいのか、グループごとに話し合ってください。

A班  
A委員

【A班】

こちらを見ていただくと分かるように、なぜ集まらないか、その理由は何か、それに対処するにはどうしたら良いか、と色分けしました。で、こちらが個人的理由、こちらが地域的理由、こちらが組織としての理由ということで分けさせていただきました。個人的な面では、自信がない・毎度毎度出て来いというのが義務的になるのが嫌だ・今、本当に安全安心が必要かという危機感が無い・そもそも出るのが面倒臭い・仕事とかしてて自信がない・「わあ、あの人もあんなことやってるわ。」といわれ人の目が気になる、ということでメリットを感じない。で、今、行政とかの協働でお金

をもらったりすると、それに対してやらなきゃいけないというプレッシャーがかかるのが嫌だ。で、コミュニティ的には私がやらなくても誰かがやってくれる。「警察がパトロールしてるやん。」「消防車が走ってるやん。」、それか「隣の人がやってくれるやん。」って、人任せ。そもそも、地域コミュニティ、わたしはわたしで個人で守るからいいわというコミュニティの低下。それと地元で農業、一次産業とかに携わって来た人がいて勤労者がおり、そもそも人が昼間とかは居なくなるということですね。で、今度いざ組織を作るとなると良くある資金不足で頓挫する。で、人集めようにも奉仕的な思いがないもので人が集まらない。それと最後に出たのが行政も借金を抱えているので行政には頼れない。個人的な理由はどうしても欲しいのかというのは、まず、世話やきの人にどんどん声を掛けてもらう。声を掛けるのが得意な人をどんどん利用する。それとか別件で、大変なことを隠して「今度、宴会やるんだけどちょっと来ない？」と、上手く引きずり込む。あと、地域のニーズを認識させる。今、地域に本当に安全安心が必要なんだよと言う。あと、損得を考えない人を探す。人材を探す。義務化から出て来たことですが、ささやかなことでも参加出来るように、スポット参加をどんどん認めるような組織。で、あと組織を作る上では事務をしてくれる人っていうのが大変重要なので事務方を探す。で、この労働に関して責任を感じるのでお金を貰わない、自分でやる。地域的な面で言うと、まず、存在を知らす為に広報誌の利用。話し合いの場を繰り返し持つ。年齢幅の広い組織だと会議をする時に上の者が「おまえ、何言ってるんや。」と、下の者の意見を潰すようなことは絶対にしない。資金不足に関しては協賛金。イベントするにもパトロールするにも冠付けていいんじゃないかと。で 寄付集め。それと良く言われることですが安全安心は無料ではないけど、お金を出すか汗を掻くかしないともらえないということ。個人的理由で楽しさをどう教えるかということ、仕事人間の方が仕事が終わった後に仲間作りに利用してもらう。参加してるのが楽しいよって、今やってる自分達が楽しいってことをどんどんアピールする、そして、結構、縁の下の力持ち的な活動もありますので、「是非、見に来て下さい。」と、アピールする。あとは良くある、友達を利用する。友達の友達は皆、友達だと言ってみえましたが。あと年齢に合わせて目とか耳に訴える。子供には子供のためのアピールの仕方、若い者には若い者へのアピールの仕方、中高年には中高年のアピールの仕方、それぞれあると思いますので。あとは例えば、消防団を辞めた人とか、上の方でも定年退職された直後を狙うとか、退職者にどんどん声を掛ける。で、真ん中のコミュニティ部門ですが、広報の利用とかチラシを利用する、発表の場を設けるとか、もしチャンスがあればどんどん発表していく。それで、縦よりも横、自分の年齢に近い人たちの組織の方が運営しやすいですが、ただ、これは先細りになるっていうデメリットを同時に払うんですけど、年齢の合わせた人とか自分と仕事の近い人、時間の合う人を集めて行けば出来るんじゃないかと。で、今度、会としてはイベントで人集めをする。会議でみんなの親睦を深めるために、ちょっと古いやり方ですが、会議の後にはちょっと一杯入れてざっくばらんな、飲みニケーションと昔から言われてるものを作って行くという、そのようにざっとまとめたんですが、これがA班の集約した意見です。

B班  
B委員

B班です。A班と同じように、個人ですとか、コミュニティ、組織ですとか、そういうことに交じってはいないんですけども、まず一番のなぜ参加しないのかですけど、仕事が忙しいだとか生活がかかっている。そういう本業が大事みたいな。なかなか仕事

を優先してるので時間を割けない。あと、まあ、個人の趣味を優先、個々の楽しみと  
いうか。そういった多種多様化して、「ボランティアして何が楽しいの?」、「自己満足  
の世界じゃないですか?」そういった方もいらっしゃるっていうのは当然なことだと  
思います。あと、やっぱり情報が不足している。何をやっているかとか、どういった  
組織があるのかとかそういった分からないから出て行かない。そう言った答えもあり  
ました。では、情報が不足していることに関して、知ろうとしない、あつたとしても  
知ろうとしない無関心ですね。なので、出席しないという意見が出ました。では、ど  
ういった形で人を集めるかということなんですけど、やっぱりロコミですとか声掛け、  
楽しめる目標を持つとか。「こういうことをやりますよ。」といった情報提供をする  
とか活動をお知らせする、知っていただく、そういうことは非常に重要だと思います。  
楽しむ、何を楽しむか、時には景品も必要だと思いますが、先程もありましたけど集  
まった時に一杯やるとか、そういったボランティア活動、飴と鞭と言うかそういう繋  
がり何かしらメリットが無ければなかなか出ないのかな。で、やっぱり楽しくやっ  
てるということをいかに宣伝するかということだと思います。結局は、一番の大元は  
B 班の意見では先程の組織の時の話と同じなんですけど地域コミュニティ、一番根本  
的な隣人からの声掛けや挨拶など、そういったことからだんだん声を掛けて行って横  
の繋がり、縦に組織として上がって行くというようなそういったものが必要じゃない  
かということで発表を終わらせていただきます。

菊本委員

ありがとうございました。では、両グループの意見を聞いてみてどうでしょうか。  
重なってる部分も多いかなという風にも思いますけど。

防犯活動を促進して行く時に必要な条件だと思うんですけど、一つの地域コミュニ  
ティの強化にまとめてしまうと、じゃあ、地域コミュニティを強化するために何が必  
要なんだろうかというふうになって来ると思います。それが今日皆さんがお話いただ  
いたそれぞれの付箋に書かれた内容になっているんだと思います。特に A グループが  
個人と地域、組織というふうにしてありますが、こういうふうに見て行くと、組織や  
地域というよりも個人とどうという、いろんなところに動機付けというものに色々  
要素が実はありそうだということが、枚数を比較するだけでも見えて来てるんだろ  
うなあという風に思いますがどうでしょうか。特に B グループの方からご意見いただ  
ければと思いますけど。組織が停滞しているとか、メンバーが固定化しているとい  
う所を分解して行くとやっぱり、それぞれいかに何て言うか、増すって言うのか団  
体で見ると結局は、団体としての活性化なり見るんですが、意外と実は、ひと一人  
増やせるかどうかっていうのは、たった一人への働きかけって言うのが実は活動の  
出発点になってるのかもしれないですね。よろしいですか。特に意見は無いですか。  
今日は出し尽くさたって感じですか。ありがとうございました。

今日は本当に、一つ目のテーマについても、二つ目のテーマについてもですね、皆  
さんのご意見が上手く引き出せた感じがしました。どうですか。有井さんから何か  
ありましたら一言もらってもよろしいですか。

有井委員

そうですね。なかなか人が集まるのは難しいですね。色々な意見が出たんです  
けど、防犯に興味を持っている方がいっぱいみえるなあって分ったんですけど、な  
かなか人をそっちの方向に向けるっていうのは難しいなあ、苦労してみえるなあ  
ということで良く分かりました。皆さんの現場の苦労ってのというのが伝わって来  
たような感じです。

	ね。
菊本委員	ありがとうございました。どうですか。皆さんから何かこれだけは今日言っておきたいって事がありましたら。
C 委員	ファシリテーターの方の、私達に意見を言おうって気にさせてくれるやり方が、今日はすごく良かったです。
D 委員	誘導がうまいよね。
菊本委員	<p>診断士のこれからのご活躍を期待して、これからもまたお世話になると思いますので。</p> <p>ではですね、今日は二つのテーマについて取り組んでいただいたわけですが、前半のテーマの所で、各団体が校区という単位でどう連携しているかイメージ図、モデル図というのをそれぞれのグループで作っていただいて、たくさんの団体というのが人から出来ているのが見えてきました。で、この次はもう一個進めて、校区とまちづくりっていうのを繋ぎ合わせた、どのような連携組織、団体の中身、集って来る団体って言うのは皆さんも分かって、色々な団体が挙がって来て既存の団体って言うのはこういう所でおそらく活躍するのは可能だろうと。こちらなんか役割別に色分けされてますし。具体的に集まって来る団体をまとめる組織ですかね。名前をどういう名前にして、この分科会で提案していくか。提案書としてまとめて提案して行く方向性をこれから見出していかなければならないと思うんですけど、次回は校区というところで集って来たところで、どういう組織作りをするとお互いの連携が取れた活動がしやすくなるのかというところに踏み込んで行く会の内容に取り組んで行きたいと考えていますので次回もよろしくお願いします。次回は特に校区を拠点とした、動きやすい組織づくりとうのと、中身、役割とかですね。例えば、活動して行く上ではどんな運営資金が必要だろうかというようなことも含めて考えて行きたいと思います。では今日は、ここまでで終わります。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>次回は12月20日(火)午前9時30分～を予定しています。本日はどうもありがとうございました。</p>